

令和4年度 第2回 郡上市男女共同参画推進審議会 要録

日 時 令和5年2月22日（水）午後2時から午後3時30分

場 所 郡上市総合文化センター4階第1大会議室

出席者 山下優子会長、原明広副会長、谷口天馬委員、宮崎倫明委員、石山加代子委員、村瀬眞実委員、臼田啓子委員、日置貢委員、山田佳代子委員、

（欠席：和佐田裕昭委員、山根麻子委員、林美恵委員、尾藤望委員、石井敦子委員、古橋容子委員）

事務局 河合市長公室長、入木田企画課長、渡瀬主事、土松主任主査（児童家庭課）、松井主査（高齢福祉課）、中野主任（健康課）、原主査（商工課）

1. 開会

2. あいさつ

会 長：意味のある審議会にしたいと思う。

事務局：今日は事業実施計画についてテーマを絞り、各課より報告する。皆様からの意見を来年度の取組みに反映しながら、男女共同参画を推進していく。忌憚のないご意見をいただきたい。

3. 議事（1）第3次郡上市男女共同参画プランに基づく事業実施計画について

会 長：事務局から説明をお願いします。

事務局：今回の審議会では、委員からの意見をもとに分野を2つに絞り、各担当者から現時点での事業実績と、来年度の計画を報告する。報告後には、各事業に対する意見をいただきたい。

以後資料①に沿って説明

基本目標Ⅱ 女と男がともに活躍できる社会の実現のうち、

基本方針（1）家庭生活における男女共同参画の推進について

事務局：各事業について報告

基本方針（2）職場における男女共同参画の推進について

事務局：各事業について報告

※産業支援センター活動経費事業のR4年度結果について推進エクセレント企業が令和5年2月時点で7社と記載があるが、8社に修正。

会 長：各事業の報告について意見はあるか。

委 員：介護職員奨学金返済事業について、座談会の参加人数と男女比はどうか。

商工課で把握していれば市内企業の育児休業取得の現状と、雇用対策推進事業で実施した座談会に参加した企業の業種の割合を知りたい。また、YouTube を使用しているようだが、フラッシュ広告（見ざるを得ない広告）などを利用する予定はないか。今年度、創業塾に参加しようと思ったが、年代のターゲットが分からなかったため、申し込まなかった。

事務局：オンライン座談会について、正確な数字は今報告できないが、私も参加したのでその覚えでは、約 10 名の参加があった。高校生が 3 名、介護職員が 4 名、介護関係者が 3 名で、講師が 5 名。男女比は概ね 1：1 だった。

事務局：育児休業の取得状況は、商工課では把握していない。しかし、座談会で出た意見によると、会社にとってのメリットや新規雇用に繋がるという思いから、若い社長は育児休業の取得等について意欲的である。ただ、古くから勤める社員との温度差があり、困っているようである。全体的な流れとして、働き手不足の中、市外企業に負けず人材を確保するためには、職場環境の基準を上げ、整えていかなければいけない、という思いがある。

座談会参加企業の業種は、製造業 7 割、サービス業 2 割、介護業 1 割であった。YouTube に掲載している動画は、座談会の様子を再編集したものであり、興味を持った方をターゲットにしている。創業塾については、商工会が主催で実施している。年代の限定はしていないため、広く周知している。

委 員：創業塾について補足する。ターゲットは特になく、意欲のある方にはぜひ参加いただきたい。商工会だよりでも紹介している。市内の起業割合は、女性が多く、年齢幅も広いと感じる。第 11 回ともいきフェア内でも、実際に育児休業を推進する社長の話を紹介した。

委 員：エクセレント企業、くるみん、えるぼし、については条件が厳しいように感じるため、その条件に合った企業へピンポイントでアプローチをするのはどうか。

子育てに関して、自分にも子どもがいるが、雨の日は遊ぶ場所に困る。どうしても遠出してしまうので、近場にあると嬉しい。市内で遊べる場所の提供が必要である。また、昨年市民病院にて出産したが、看護師 1 人が受け持つ妊婦の人数が多く、看護師不足を感じた。

事務局：エクセレント企業等の認定について、指摘のとおりである。今はチラシを撒いている状況だが、個別で声をかけていきたい。企業側のやる気があることが前提なので、そういったところへ優先的にアプローチしていく。エクセレント企業の認定については、会社規模は条件に無く、その規模（社員数等）別に条件が定められている。

事務局：子どもが遊ぶ場所の提供についてだが、各地域には児童館があり、ほっとサロンも開催している。ただ、毎日の開所ではなく日曜日は閉所しているので、広く利用できるよう検討したい。

委員：介護士だけではなく、看護師や保育士も足りていないのではないかと。専門職を希望していても市外で就職する人が多いため、市内で就職してもらえるような支援が必要ではないか。介護士の確保だけではなく、他業種の確保にも努める必要がある。

事務局：他自治体では、介護職や医療職に対して補助をしているところもあるため、検討したい。

事務局：医療職は、募集しても人が集まりにくい状況であるため、新卒者だけではなく、経験者でも応募できるように年齢の幅を広く設定している。看護職希望者へは、市の病院で勤めると、修学資金の返済を免除する支援がある。また、養成学校へ直接アプローチもしており、人材確保に努めている。

委員：現在4世代同居をしているため、子育てから介護まで全ての分野が自分に関係ある。病児保育についてだが、実施している病院からは勧められず、勤務先から勧められる。また、子どもを預けてまで働くべきかという葛藤があるし、休みにくさもある。私は同居家族がいるため対応できるが、そうでない家庭はどうしたらいいのか。子どもが市外へ進学した後の就職を考えたとき、郡上に帰ってきて就職したい、と思えるポイントはどこか、どんなところに魅力を感じるかを考え、そこをアピールしていかなければ状況は変わらないと思う。やはり魅力のある職場かどうか、専門職不足の解消に繋がるのではないかと。

また、介護については、認知症の知識や理解があれば施設を利用する以外の方法でサポートができると思う。出産前には、母親学級があり出産後のことを学ぶ機会があるので、同じように家庭内でサポートする立場の人が認知症のことを学べる場があると良い。

事務局：高齢福祉課では、市内の小中高生が対象の認知症サポーター養成講座を開催している。今年度は寺での開催もあったが、特定の年齢層だけでなくより広く参加してもらえるよう工夫したい。また、認知症カフェ「良々カフェ」を、市内の様々な場所（商業施設や公民館）で毎月開催している。認知症のサポートをしている方、認知症について知りたい方などが集まり、コミュニティづくりの場になっているためぜひ利用してほしい。

委員：商工課の事業実施計画について、全体的に資格取得支援が目的のものが多く印象を受ける。もちろんそれも必要な取り組みだが、その前の段階である意識啓発も大切だと思う。また、新しい世代と古い世代との意識の差があるのも事実である。啓発の手段として、チラシ配布等に取り組んでいるようだが、その古い世代には効いているのか。撒くだけになっていないか。伝えたいメッセージやターゲットも含めて、効果について審議会で報告できると良い。

事務局：企業の意識改革については、雇用対策協議会で来年度重点を置き、取り組む予定である。高校生は進学がメインとなる中、就職を機に帰ってきてもらえるよう、市内企業においては働きやすい環境を整えておくことが重要であり、またそれは、市外企業に並ぶための最低限の基準になる。そのことを市内企業へ伝えていきたい。郡上市で暮らしたいと思ってもらうことも大事であるため、コミュニティづくりの場も提供している。また、各地域の中学校において、その地域の企業に話をしてもらう「郡上未来塾」を開催している。自分の身近にある企業を知ること、将来郡上で就職しようと思えるきっかけになることを期待している。郡上市の付加価値を作ることも取り組んでいきたい。

委員：私が住んでいる地域の小さい子をもつ母親は、みんな働いている。保育園の支援事業を利用しているが、それを支えている保育士に負担がかかっているのではないかと。教員、看護、介護も同じだと思う。延長保育など、各事業の実績が100%とあるが、保育士が不足する中、そのバランスが崩れるのが怖い。教員の働き方改革として法整備も進んでいるように、課題が何か見極めることも必要。

委員：各課の事業や、今日の会議資料もよくできている。事業を継続するかどうかの判断は、費用対効果にて検証しているかと思うが、この資料ではその経緯が伝わりにくい。報告の仕方を工夫すると良い。また、様々なツールで情報を発信しているが、年代別で広報手段を変えるとより効果が出るのではないかと。

事務局：企業にチラシを送ると人事担当が受け取るため、それをどうするかは担当者次第である。より周知してもらえるよう、人事担当へ直接声がけしていく。雇用対策協議会では様々なSNSを持っているので、活用していきたい。

委員：実績と課題を検証していく中で、どこかのタイミングで方針ややり方を見直すことも必要になってくると思う。

事務局：例えば保育園の各サービスについて、100%を維持することが本当に大事なことなのか。組織だけでなく、仕事を続けてもらえるように個人への支援も必要である。時代や生活の様子が変わっていく中で、各課がそれに対応しているし、よく取り組んでいるため、市民にもっと知ってもらえるといい。

事務局：男女共同参画は分野が多岐に渡るため、関係各課で会議を開き取り組んでいる。各専門職についての確保は厳しい状況であるため、連携し対応したい。人口減少が進む中、特に田舎では需要がある分野において人手不足が顕著である。できるだけ郡上市に戻ってきてもらえるよう努めたい。また、学習課程の中で「郡上学」として、生まれた町に親しみをもてるような取り組みをしている。就職に繋がるかは分からないが、市の良さを知ってもらうことは重要であるため、人材確保のきっかけとして、今後も継続する。それ以降はそれぞれのステージに応じて取り組んでおり、報告でもあったように雇用対策協議会の各事業や、大学へのアプローチ、合同企業説明会の開催をしている。今後も事業を展開しつつ、一方ではサービスが低下しないよ

うに、省力化・効率化（DX等）も推進する必要があり、男女共同参画に繋げていきたい。

4. その他

事務局：いただいた意見を踏まえ、今後も男女共同参画の事業推進に取り組んでいく。

第13回ともいきフェアを今年度もCATVにて放送する。市内において、夫婦活躍する方へのインタビューを放送するので、ぜひご覧いただきたい。

5. 閉会（15：30）